

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の IF 記載要領 2013 に準拠して作成

持続性選択 H_1 受容体拮抗剤

日本薬局方 **エバスチン錠**

エバスチン錠5mg「ケミファ」

エバスチン錠10mg「ケミファ」

日本薬局方 **エバスチン口腔内崩壊錠**

エバスチンOD錠5mg「ケミファ」

エバスチンOD錠10mg「ケミファ」

Ebastine

剤形	エバスチン錠 5mg「ケミファ」 : フィルムコーティング錠 エバスチン錠 10mg「ケミファ」 : フィルムコーティング錠 エバスチン OD 錠 5mg「ケミファ」 : 素錠（口腔内崩壊錠） エバスチン OD 錠 10mg「ケミファ」 : 素錠（口腔内崩壊錠）
製剤の規制区分	該当しない
規格・含量	エバスチン錠 5mg「ケミファ」:1 錠中(日局) エバスチン 5 mg エバスチン錠 10mg「ケミファ」:1 錠中(日局) エバスチン 10 mg エバスチン OD 錠 5mg「ケミファ」:1 錠中(日局) エバスチン 5 mg エバスチン OD 錠 10mg「ケミファ」:1 錠中(日局) エバスチン 10 mg
一般名	和名: エバスチン (JAN) 洋名: Ebastine (JAN、INN)
製造販売承認年月日 薬価基準収載・ 発売年月日	製造承認年月日 : 2008 年 3 月 13 日 薬価基準収載年月日 : 2008 年 7 月 4 日 発売年月日 : 2008 年 7 月 4 日
開発・製造販売（輸入） ・提携・販売会社名	製造販売元: 日本ケミファ株式会社 販売元: 共創未来ファーマ株式会社
医薬情報担当者 の連絡先	
問い合わせ窓口	共創未来ファーマ株式会社 お客様相談室 TEL 050-3383-3846 医療関係者向けホームページ http://www.kyosomirai-p.co.jp/medical/top.html

本 IF は 2020 年 3 月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構ホームページ「医薬品に関する情報」

<https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/> にてご確認下さい。

IF 利用の手引きの概要

－日本病院薬剤師会－

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において IF 記載要領 2008 が策定された。

IF 記載要領 2008 では、IF を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-IF が提供されることとなった。

最新版の e-IF は、（独）医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ（<https://www.info.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IF を掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせて e-IF の情報を検討する組織を設置して、個々の IF が添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IF の様式]

- ①規格は A4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体では、これに従うものとする。
- ②IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するもの

とし、2 頁にまとめる。

[IF の作成]

- ①IF は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」（以下、「IF 記載要領 2013」と略す）により作成された IF は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IF の発行]

- ①「IF 記載要領 2013」は、平成 25 年 10 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF 記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

3. IF の利用にあたって

「IF 記載要領 2013」においては、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体の IF については、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意して作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

（2013 年 4 月改訂）

目 次

I.	概要に関する項目	1	VIII.	安全性（使用上の注意等）に関する項目	21
1.	開発の経緯	1	1.	警告内容とその理由	21
2.	製品の治療学的・製剤学的特性	1	2.	禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）	21
II.	名称に関する項目	2	3.	効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	21
1.	販売名	2	4.	用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	21
2.	一般名	2	5.	慎重投与内容とその理由	21
3.	構造式又は示性式	2	6.	重要な基本的注意とその理由及び処置方法	21
4.	分子式及び分子量	2	7.	相互作用	21
5.	化学名（命名法）	2	8.	副作用	22
6.	慣用名、別名、略号、記号番号	2	9.	高齢者への投与	23
7.	CAS登録番号	2	10.	妊婦、産婦、授乳婦等への投与	23
III.	有効成分に関する項目	3	11.	小児等への投与	23
1.	物理化学的性質	3	12.	臨床検査結果に及ぼす影響	23
1.	有効成分の各種条件下における安定性	3	13.	過量投与	23
2.	有効成分の確認試験法	3	14.	適用上の注意	23
3.	有効成分の定量法	3	15.	その他の注意	23
IV.	製剤に関する項目	4	16.	その他	23
1.	剤形	4	IX.	非臨床試験に関する項目	24
2.	製剤の組成	5	1.	薬理試験	24
3.	懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	5	2.	毒性試験	24
4.	製剤の各種条件下における安定性	5	X.	管理的事項に関する項目	25
5.	調製法及び溶解後の安定性	6	1.	規制区分	25
6.	他剤との配合変化（物理化学的变化）	7	2.	有効期間又は使用期限	25
7.	溶出性	7	3.	貯法・保存条件	25
8.	生物学的試験法	11	4.	薬剤取扱い上の注意点	25
9.	製剤中の有効成分の確認試験法	11	5.	承認条件等	25
10.	製剤中の有効成分の定量法	11	6.	包装	25
11.	力価	11	7.	容器の材質	25
12.	混入する可能性のある夾雑物	12	8.	同一成分・同効薬	25
13.	治療上注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	12	9.	国際誕生年月日	25
14.	その他	12	10.	製造販売承認年月日及び承認番号	26
V.	治療に関する項目	13	11.	薬価基準収載年月日	26
1.	効能又は効果	13	12.	効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	26
2.	用法及び用量	13	13.	再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	26
3.	臨床成績	13	14.	再審査期間	26
VI.	薬効薬理に関する項目	14	15.	投薬期間制限医薬品に関する情報	26
1.	薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	14	16.	各種コード	26
2.	薬理作用	14	17.	保険給付上の注意	26
VII.	薬物動態に関する項目	15	XI.	文献	27
1.	血中濃度の推移・測定法	15	1.	引用文献	27
2.	薬物速度論的パラメータ	19	2.	その他の参考文献	27
3.	吸収	20	XII.	参考資料	28
4.	分布	20	1.	主な外国での発売状況	28
5.	代謝	20	2.	海外における臨床支援情報	28
6.	排泄	20	XIII.	備考	29
7.	トランスポーターに関する情報	20	1.	調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報	29
8.	透析等による除去率	20	2.	その他の関連資料	29

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

エバスチン錠、エバスチン口腔内崩壊錠は、持続性選択H₁受容体拮抗剤であり、本邦では普通錠が1996年6月、口腔内崩壊錠が2005年7月に上市されている。

エバスチン錠 5mg「ケミファ」・10mg「ケミファ」、エバスチン OD 錠 5mg「ケミファ」・10mg「ケミファ」は、後発医薬品として 2008 年 3 月に承認を取得、同年 7 月に上市した。

また、エバスチン OD 錠 5mg「ケミファ」・10mg「ケミファ」は服薬感の向上を目的とした添加物の変更を行い 2010 年 7 月に承認された。2019 年 2 月より共創未来ファーマ株式会社でも販売されている。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 1 日 1 回経口投与のヒスタミン H₁ 受容体拮抗剤である。
- (2) エバスチン OD 錠 5mg・10mg「ケミファ」は、水なし、水ありのどちらでも服用可能である（23 頁参照）。
- (3) 重大な副作用（22 頁参照）としてショック、アナフィラキシー、肝機能障害、黄疸があらわれることがある（頻度不明）。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

エバスチン錠 5mg「ケミファ」
エバスチン錠 10mg「ケミファ」
エバスチン OD 錠 5mg「ケミファ」
エバスチン OD 錠 10mg「ケミファ」

(2) 洋名

Ebastine

(3) 名称の由来

「有効成分」＋「剤形」＋「含量」＋「屋号」より命名した。

2. 一般名

(1) 和名（命名法）

エバスチン（JAN）

(2) 洋名（命名法）

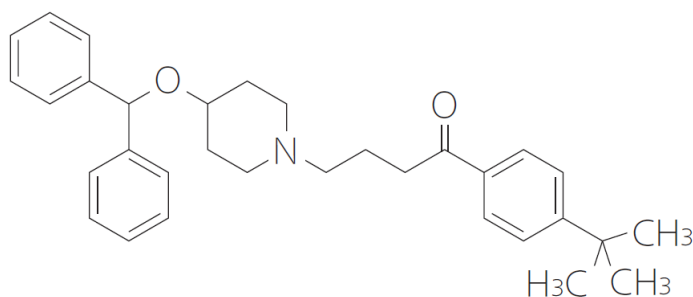
Ebastine（JAN、INN）

(3) ステム

抗アレルギー剤：-astine

3. 構造式又は示性式

構造式：



4. 分子式及び分子量

分子式：C₃₂H₃₉NO₂

分子量：469.66

5. 化学名（命名法）

1-[4-(1,1-Dimethylethyl)phenyl]-4-[4-(diphenylmethoxy)piperidin-1-yl]butan-1-one (IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

該当しない

7. CAS 登録番号

90729-43-4

III. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色の結晶又は結晶性の粉末

(2) 溶解性

各種溶媒における溶解度

溶媒	日局の溶解度表記
酢酸 (100)	溶けやすい
メタノール	やや溶けやすい
エタノール (95)	やや溶けにくい
水	ほとんど溶けない

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点

融点：84～87℃

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

1. 有効成分の各種条件下における安定性

光によって徐々に帯黄白色となる。

2. 有効成分の確認試験法

- (1) 1,3-ジニトロベンゼン試液による呈色反応
- (2) 紫外可視吸光度測定法
- (3) 赤外吸収スペクトル測定法（臭化カリウム錠剤法）

3. 有効成分の定量法













電位差滴定法

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、外観及び性状

区別：	エバスチン錠 5mg 「ケミファ」	フィルムコーティング錠
	エバスチン錠 10mg 「ケミファ」	フィルムコーティング錠
	エバスチン OD 錠 5mg 「ケミファ」	素錠
	エバスチン OD 錠 10mg 「ケミファ」	素錠
性状：	エバスチン錠 5mg 「ケミファ」	白色のフィルムコーティング錠
	エバスチン錠 10mg 「ケミファ」	白色の割線入りフィルムコーティング錠
	エバスチン OD 錠 5mg 「ケミファ」	薄い紅色の素錠
	エバスチン OD 錠 10mg 「ケミファ」	白色の素錠

販売名	表面	裏面	側面	色調
エバスチン錠 5mg 「ケミファ」				白色
	直径：6.6mm、厚さ：3.2mm、重量：108mg			
エバスチン錠 10mg 「ケミファ」				白色
	短・長径：5.1・10.1mm、厚さ：3.2mm、重量：144mg			
エバスチン OD 錠 5mg 「ケミファ」				薄い紅色
	直径：6.5mm、厚さ：2.6mm、重量：100mg			
エバスチン OD 錠 10mg 「ケミファ」				白色
	直径：8.0mm、厚さ：3.6mm、重量：200mg			

(2) 製剤の物性

該当資料なし

(3) 識別コード

エバスチン錠 5mg 「ケミファ」 : NCP EA

エバスチン錠 10mg 「ケミファ」 : NCP EB

エバスチン OD 錠 5mg 「ケミファ」 : NCP EC

エバスチン OD 錠 10mg 「ケミファ」 : NCP ED

(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分（活性成分）の含量

エバスチン錠 5mg「ケミファ」	: 1錠中（日局）エバスチン 5 mg
エバスチン錠 10mg「ケミファ」	: 1錠中（日局）エバスチン 10 mg
エバスチン OD 錠 5mg「ケミファ」	: 1錠中（日局）エバスチン 5 mg
エバスチン OD 錠 10mg「ケミファ」	: 1錠中（日局）エバスチン 10mg

(2) 添加物

エバスチン錠 5mg「ケミファ」	: 乳糖水和物、結晶セルロース、カルメロースカルシウム、ヒドロキシプロピルセルロース、軽質無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール 6000、酸化チタン、タルク、カルナウバロウ
エバスチン錠 10mg「ケミファ」	: 乳糖水和物、結晶セルロース、カルメロースカルシウム、ヒドロキシプロピルセルロース、軽質無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール 6000、酸化チタン、タルク、カルナウバロウ
エバスチン OD 錠 5mg「ケミファ」	: D-マンニトール、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、クロスボビドン、軽質無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム、赤色 106 号、精製ステビア抽出物、香料
エバスチン OD 錠 10mg「ケミファ」	: D-マンニトール、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、クロスボビドン、軽質無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム、精製ステビア抽出物

(3) その他

該当しない

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性¹⁾²⁾

(1) エバスチン錠 5mg「ケミファ」

試験名	保存条件	保存期間	保存形態	結果
加速試験	40℃ 75%RH	6ヵ月	最終包装製品	規格に適合
無包装 安定性試験	40℃	3ヵ月	褐色ガラス瓶 (気密)	規格に適合
	25℃ 75%RH	3ヵ月	シャーレ (開放)	規格に適合
	総照度 120万lx・hr (25℃、45%RH)	-	シャーレ (開放)	規格に適合

試験項目：性状、確認試験、崩壊性、定量（加速試験）

性状、純度試験、溶出性、定量、硬度（無包装安定性試験）

(2) エバスチン錠 10mg「ケミファ」

試験名	保存条件	保存期間	保存形態	結果
加速試験	40℃ 75%RH	6ヵ月	最終包装製品	規格に適合
無包装 安定性試験	40℃	3ヵ月	褐色ガラス瓶 (気密)	規格に適合
	25℃ 75%RH	3ヵ月	シャーレ (開放)	規格に適合
	総照度 120万lx・hr (25℃、45%RH)	-	シャーレ (開放)	30万lx・hrより 類縁物質の増加

試験項目：性状、確認試験、崩壊性、定量（加速試験）

性状、純度試験、溶出性、定量、硬度（無包装安定性試験）

(3) エバスチン OD 錠 5mg「ケミファ」

試験名	保存条件	保存期間	保存形態	結果
加速試験	40±1℃ 75±5%RH	6ヵ月	最終包装製品	規格に適合
無包装 安定性試験	40℃ 75%RH	3ヵ月	褐色ガラス瓶 (気密)	規格に適合
	25℃ 75%RH	3ヵ月	褐色ガラス瓶 (開放)	規格に適合
	総照度 120万lx・hr (25℃、45%RH)	-	シャーレ (開放)	30万lx・hrより 錠剤表面の着色、 類縁物質の増加、 および含量低下

試験項目：性状、確認試験、純度試験、製剤均一性試験、崩壊試験、溶出試験、定量試験（加速試験）

性状、純度試験、崩壊試験、溶出試験、定量試験、硬度（無包装安定性試験）

(4) エバスチン OD 錠 10mg「ケミファ」

試験名	保存条件	保存期間	保存形態	結果
加速試験	40±1℃ 75±5%RH	6ヵ月	最終包装製品	規格に適合
無包装 安定性試験	40℃ 75%RH	3ヵ月	褐色ガラス瓶 (気密)	規格に適合
	25℃ 75%RH	3ヵ月	褐色ガラス瓶 (開放)	規格に適合
	総照度 120万lx・hr (25℃、45%RH)	-	シャーレ (開放)	30万lx・hrより 錠剤表面の着色、 類縁物質の増加、 および含量低下

試験項目：性状、確認試験、純度試験、製剤均一性試験、崩壊試験、溶出試験、定量試験（加速試験）

性状、純度試験、崩壊試験、溶出試験、定量試験、硬度（無包装安定性試験）

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当しない

7. 溶出性³⁾

(1) 溶出挙動における類似性

1) エバスチン錠5mg「ケミファ」

本製剤は後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン（平成13年5月31日 医薬審第786号）に準拠。

（方法） 日局溶出試験法 パドル法

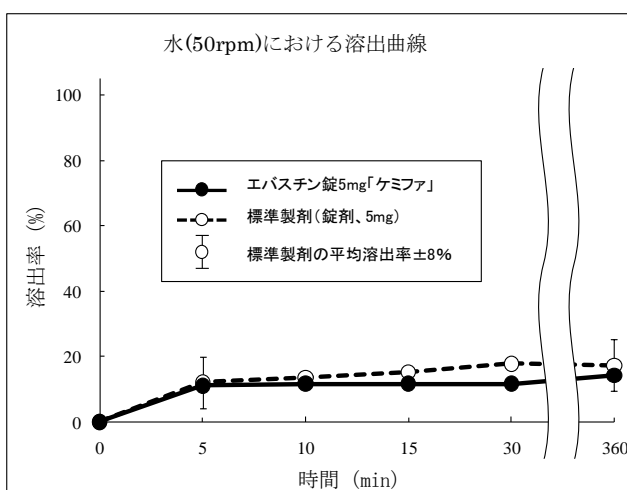
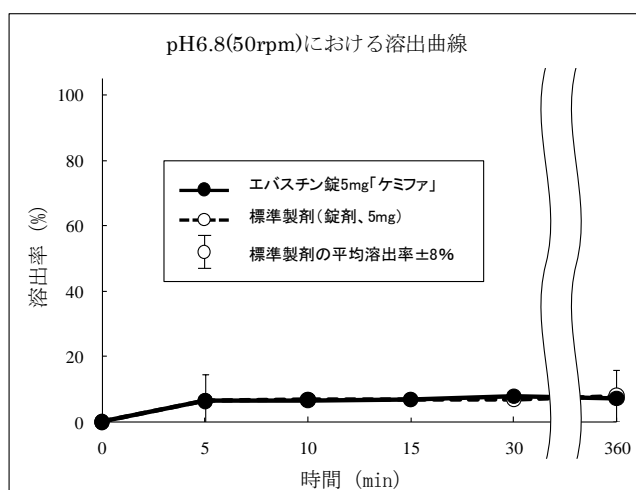
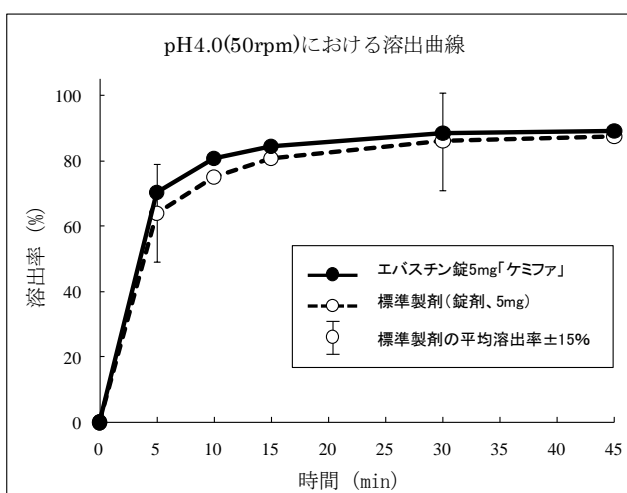
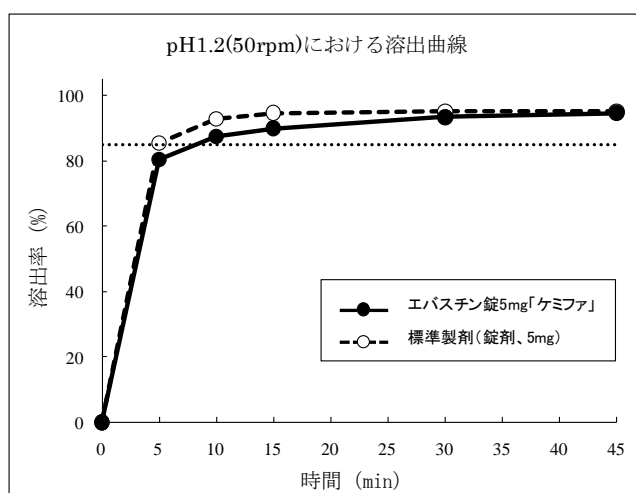
試験条件： 回転数50rpm

試験液： pH1.2、pH4.0、pH6.8、水

判定基準：

試験液	判定時間	判定基準
pH1.2	15 分	平均 85%以上溶出する
pH4.0	5 分、30 分	試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率 $\pm 15\%$ の範囲にある
pH6.8	5 分、360 分	試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率 $\pm 8\%$ の範囲にある
水	5 分、360 分	試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率 $\pm 8\%$ の範囲にある

（結果） すべての試験液において判定基準を満たし、標準製剤と同等性を有することが確認された。



2) エバスチン錠10mg「ケミファ」

本製剤は後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン（平成13年5月31日 医薬審第786号）に準拠。

（方法） 日局溶出試験法 パドル法

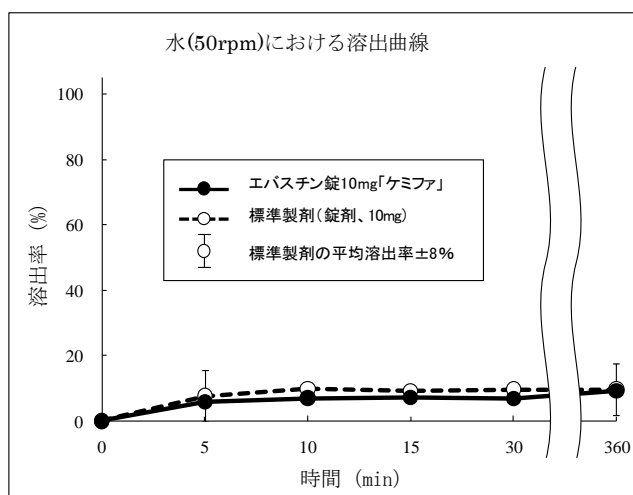
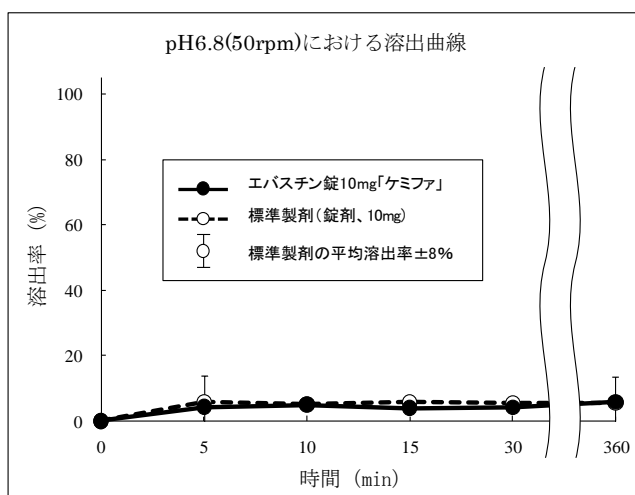
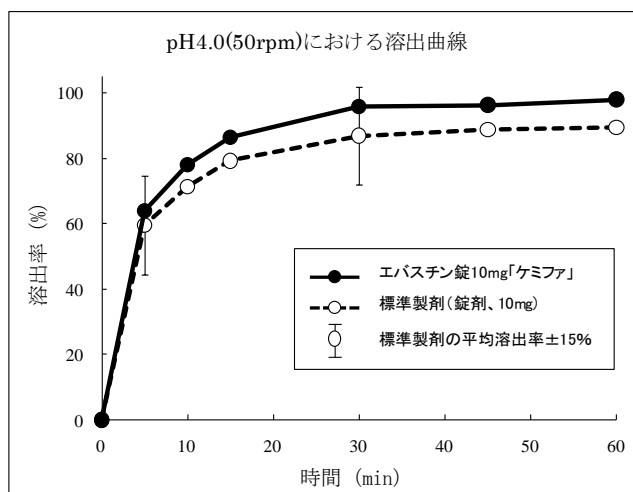
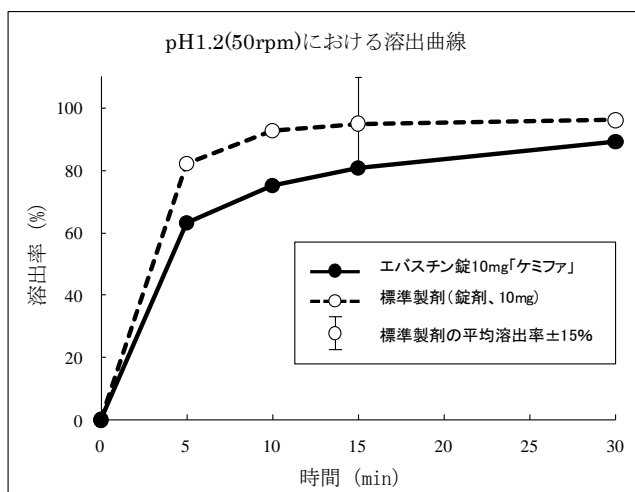
試験条件： 回転数50rpm

試験液： pH1.2、pH4.0、pH6.8、水

判定基準：

試験液	判定時間	判定基準
pH1.2	15 分	試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率 $\pm 15\%$ の範囲にある
pH4.0	5 分、30 分	試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率 $\pm 15\%$ の範囲にある
pH6.8	5 分、360 分	試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率 $\pm 8\%$ の範囲にある
水	5 分、360 分	試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率 $\pm 8\%$ の範囲にある

（結果） すべての試験液において判定基準を満たし、標準製剤と同等性を有することが確認された。



3) エバスチンOD錠5mg「ケミファ」

本製剤は経口固形製剤の処方変更の生物学的同等性試験ガイドラインに準拠（平成18年11月24日 薬食審第1124004号）に準拠。

（方法） 日局溶出試験法 パドル法

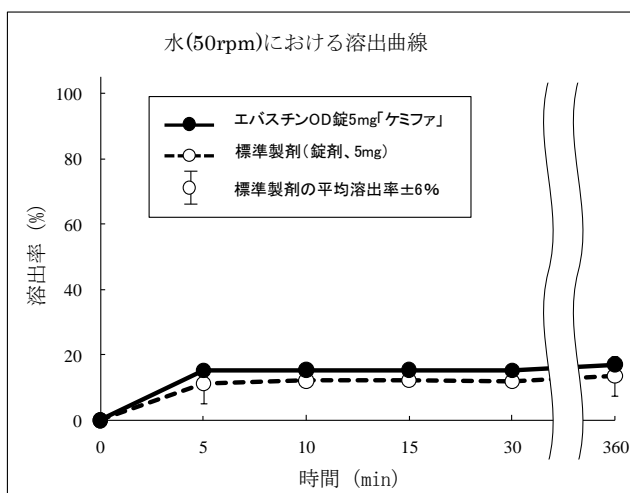
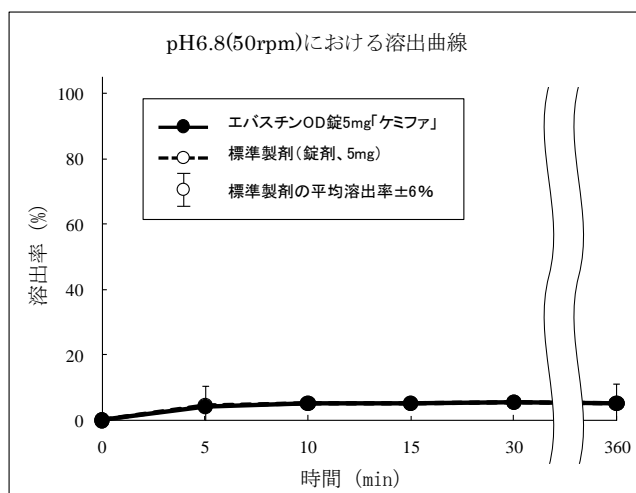
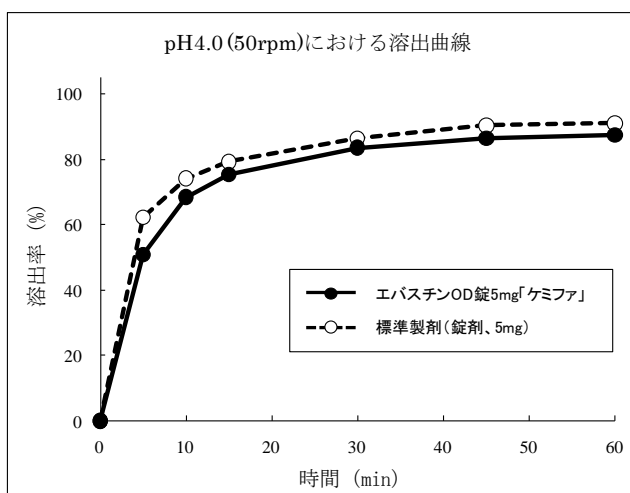
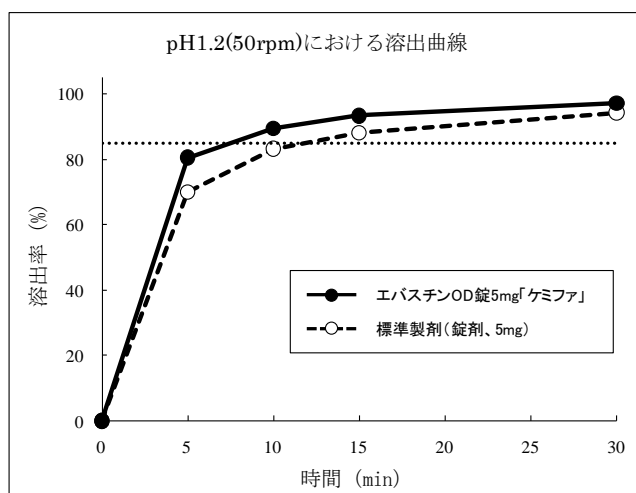
試験条件： 回転数50rpm、100rpm

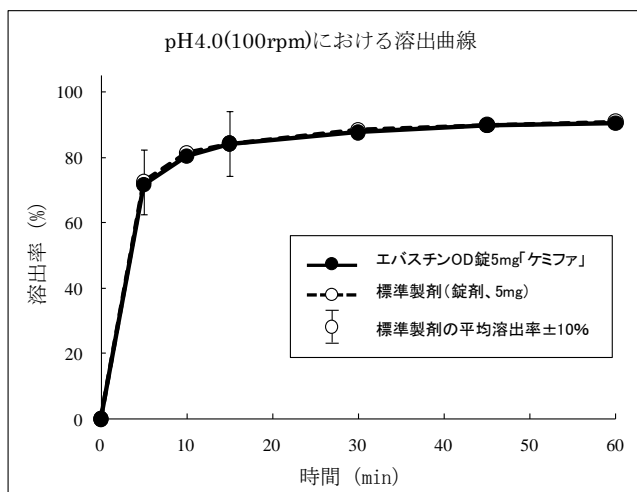
試験液： pH1.2、pH4.0、pH6.8、水

判定基準：

回転数	試験液	判定時間	判定基準
50rpm	pH1.2	15 分	15 分以内に平均 85%以上溶出する
	pH4.0	5 分、15 分、30 分、45 分	f2 値 \geq 50
	pH6.8	5 分、360 分	試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率 \pm 6%の範囲にある
	水	5 分、360 分	試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率 \pm 6%の範囲にある
100rpm	pH6.8	5 分、15 分	試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率 \pm 10%の範囲にある

（結果） すべての試験液において判定基準を満たし、標準製剤と同等性を有することが確認された。





4) エバスチンOD錠10mg「ケミファ」

本製剤は経口固形製剤の処方変更の生物学的同等性試験ガイドラインに準拠(平成18年11月24日 薬食審第1124004号)に準拠。

(方法) 日局溶出試験法 パドル法

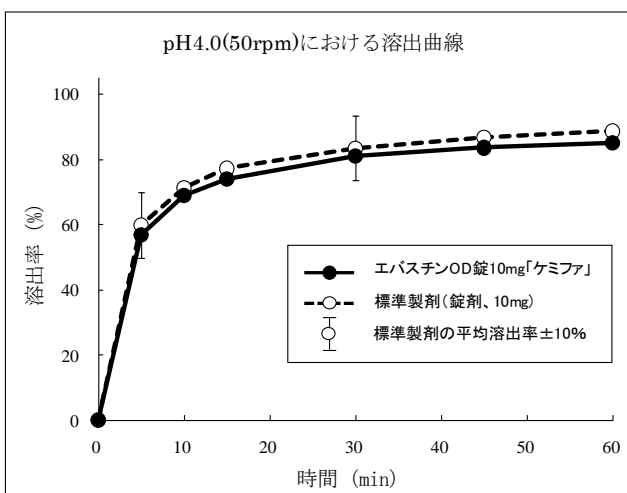
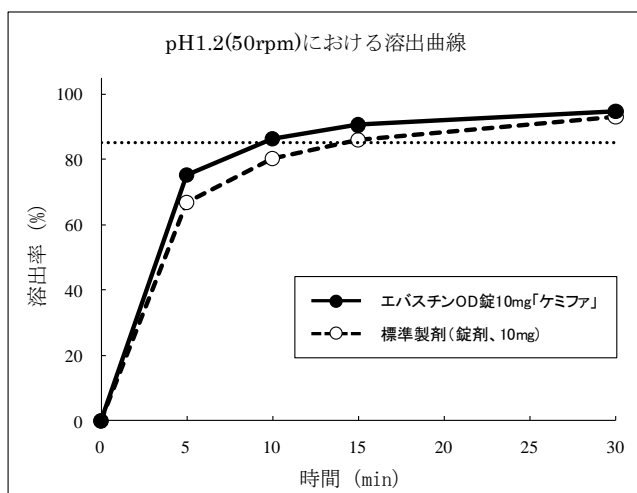
試験条件: 回転数50rpm、100rpm

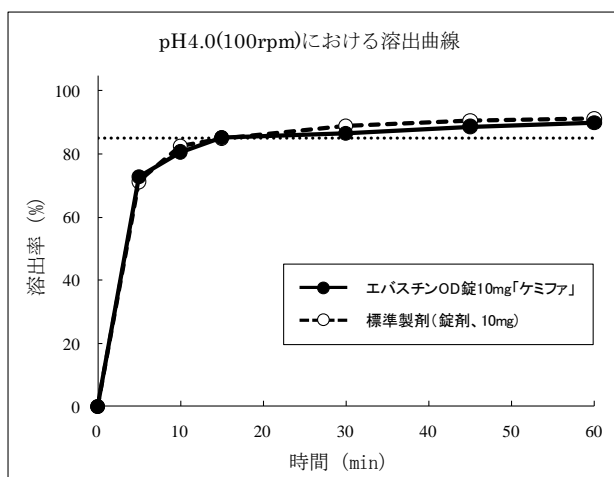
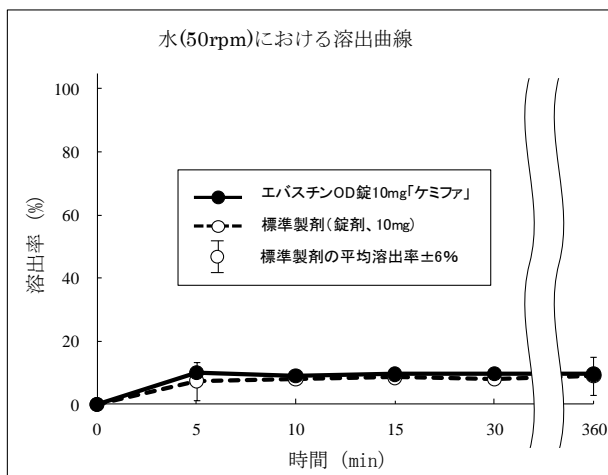
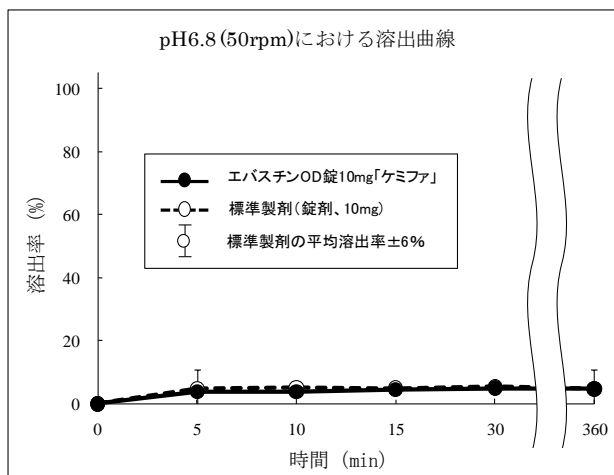
試験液: pH1.2、pH4.0、pH6.8、水

判定基準:

回転数	試験液	判定時間	判定基準
50rpm	pH1.2	15 分	15 分以内に平均 85%以上溶出する
	pH4.0	5 分、30 分	試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率 $\pm 10\%$ の範囲にある
	pH6.8	5 分、360 分	試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率 $\pm 6\%$ の範囲にある
	水	5 分、360 分	試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率 $\pm 6\%$ の範囲にある
100rpm	pH6.8	15 分	15 分以内に平均 85%以上溶出する

(結果) すべての試験液において判定基準を満たし、標準製剤と同等性を有することが確認された。





(2) 公的溶出規格への適合

エバステン錠5mg「ケミファ」及びエバステン錠10mg「ケミファ」並びにエバステンOD錠5mg「ケミファ」及びエバステンOD錠10mg「ケミファ」はそれぞれ、日本薬局方医薬品各条に定められたエバステン錠及びエバステン口腔内崩壊錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

1) エバステン錠5mg・10mg「ケミファ」

(方法) 日局溶出試験法パドル法

条件：回転数 50rpm

試験液 日本薬局方 溶出試験液第1液 (900mL)

(結果) 30分間の溶出率が75%以上であった。

2) エバステンOD錠5mg・10mg「ケミファ」

(方法) 日局溶出試験法パドル法

条件：回転数 50rpm

試験液 日本薬局方 溶出試験液第1液 (900mL)

(結果) 15分間の溶出率が80%以上であった。

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

紫外可視吸光度測定法

10. 製剤中の有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 治療上注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当しない

14. その他

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

蕁麻疹、湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚掻痒症、アレルギー性鼻炎

2. 用法及び用量

通常、成人には、エバスチンとして1回 5～10mg を1日1回経口投与する。

なお、年齢・症状により適宜増減する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当しない

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当資料なし

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群

セチリジン塩酸塩、アゼラスチン塩酸塩、エピナスチン塩酸塩、オロパタジン塩酸塩、フェキソフェナジン塩酸塩、オキサトミド、ケトチフェンフマル酸塩、ベポタスチンベシル酸塩、ロラタジン等のヒスタミン H₁ 受容体拮抗剤

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序⁴⁾

エバスタチンはヒスタミン H₁ 受容体遮断薬である。H₁ 受容体を介するヒスタミンによるアレルギー性反応（毛細血管の拡張と透過性亢進、気管支平滑筋の収縮、知覚神経終末刺激による瘙痒、など）を抑制する。これに加えて、ケミカルメディエーター遊離抑制作用を有する点が、古典的抗ヒスタミン薬とは異なる。なお、本薬の作用の大部分は活性代謝物のカレバスタチンの作用である。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間⁵⁾

「VII-1-(3) 臨床試験で確認された血中濃度」の項参照

(3) 臨床試験で確認された血中濃度⁵⁾

生物学的同等性試験

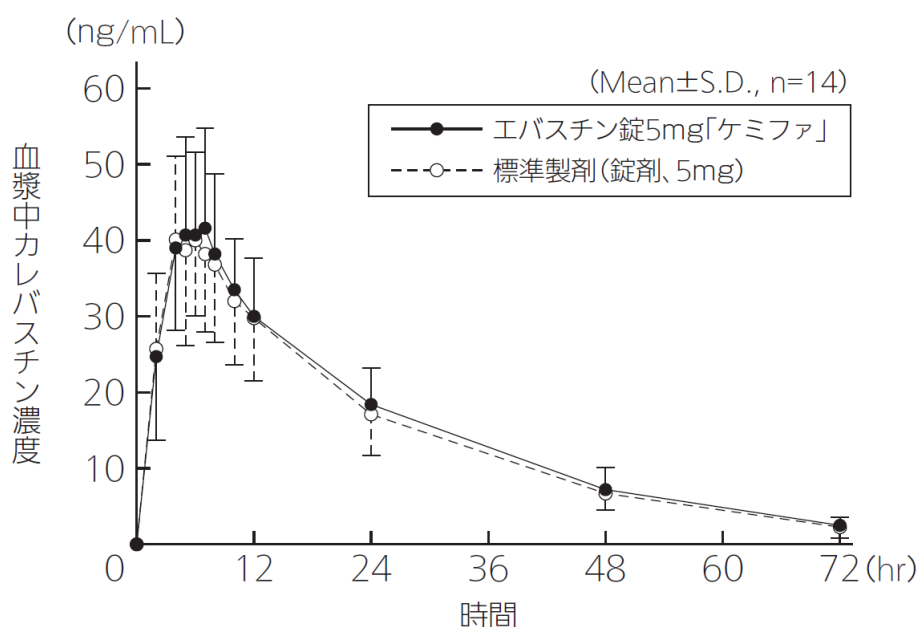
本製剤は後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン(平成13年5月31日 医薬審発第786号)に準拠。

1) エバスチン錠 5mg「ケミファ」

エバスチン錠 5mg「ケミファ」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠(エバスチンとして5mg)健康成人男子(n=14)に絶食単回経口投与して血漿中カレバスチン(エバスチン代謝物)濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log(0.80)～log(1.25)の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₇₂ (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
エバスチン錠 5mg「ケミファ」	1099.5 ±271.2	45.0±13.0	6.1±1.4	16.9±2.7
標準製剤 (錠剤、5mg)	1052.2 ±278.6	45.8±11.1	5.4±1.4	16.7±2.3

(Mean±S.D., n=14)



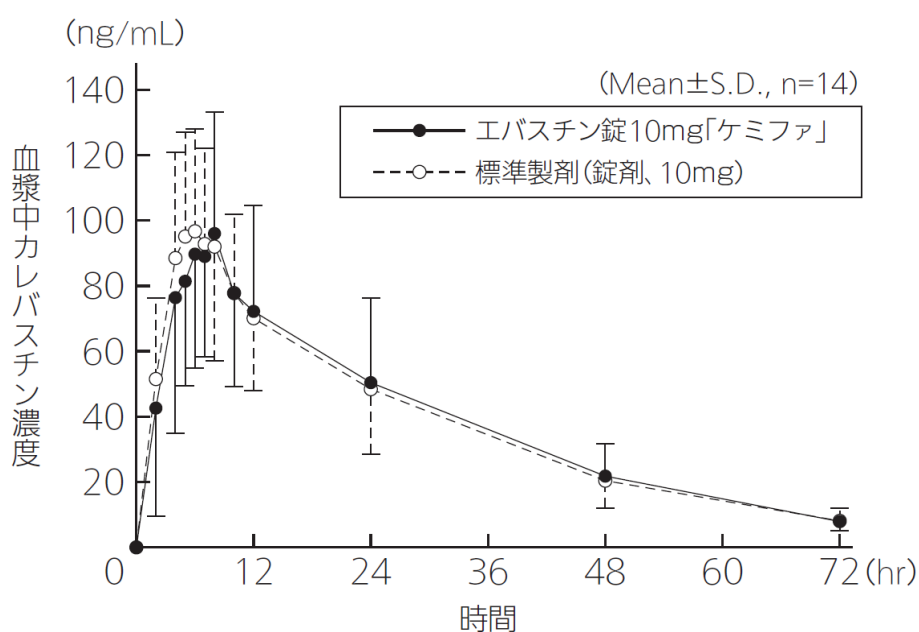
血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

2) エバスチン錠 10mg「ケミファ」

エバスチン錠 10mg「ケミファ」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠（エバスチンとして 10mg）健康成人男子（n=14）に絶食単回経口投与して血漿中カレバステチン濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₇₂ (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
エバスチン錠 10mg「ケミファ」	2790.2 ±1168.8	102.4±39.7	7.0±2.1	18.7±3.2
標準製剤 (錠剤、10mg)	2760.6 ±953.8	105.8±30.8	5.9±1.3	18.9±2.8

(Mean±S.D., n=14)



血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

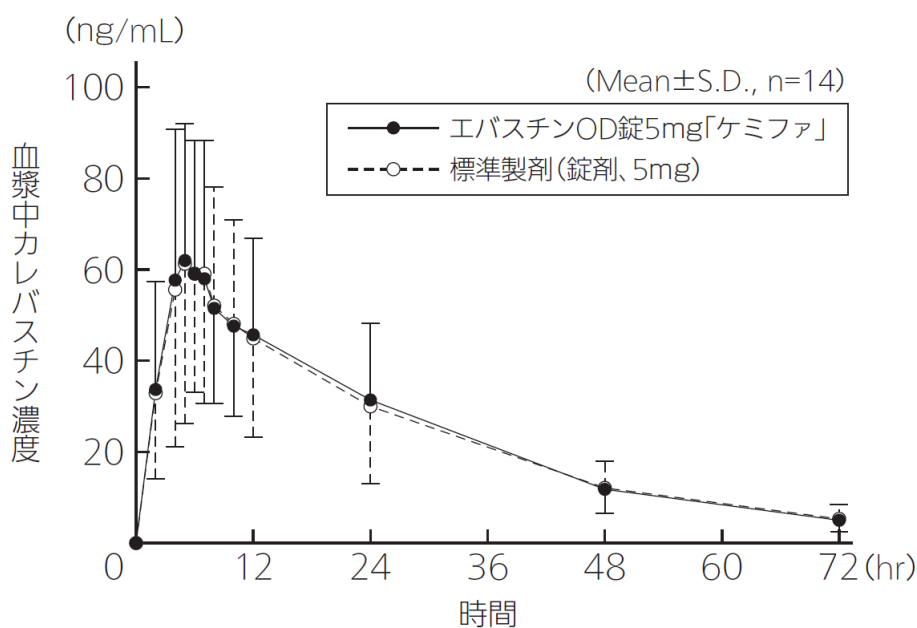
3) エバスチン OD 錠 5mg 「ケミファ」

エバスチン OD 錠 5mg 「ケミファ」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 1 錠（エバスチンとして 5mg）健康成人男子に絶食下、水あり及び水なし単回経口投与して血漿中カレバスチン濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

（水あり投与）

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₇₂ (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
エバスチン OD 錠 5mg 「ケミファ」	1733.9 ±811.9	65.7±30.7	5.7±1.1	18.5±2.7
標準製剤 (錠剤、5mg)	1712.0 ±856.0	65.5±34.6	5.4±1.0	20.0±4.0

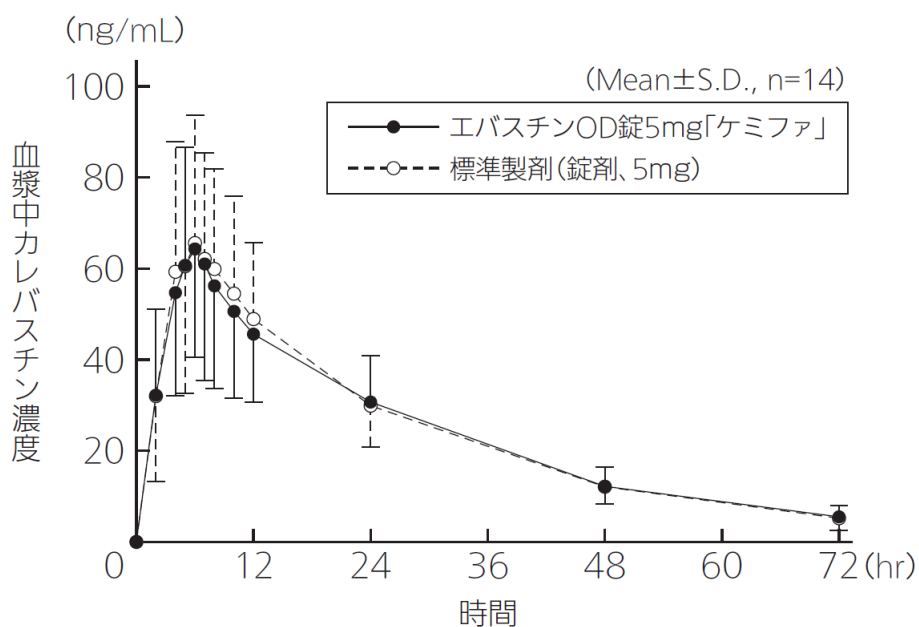
(Mean±S.D., n=14)



（水なし投与）

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₇₂ (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
エバスチン OD 錠 5mg 「ケミファ」	1749.8 ±568.4	69.5±24.9	6.1±1.4	19.4±3.2
標準製剤 (錠剤、5mg)	1773.9 ±577.9	70.3±27.5	6.9±2.3	18.9±2.8

(Mean±S.D., n=14)



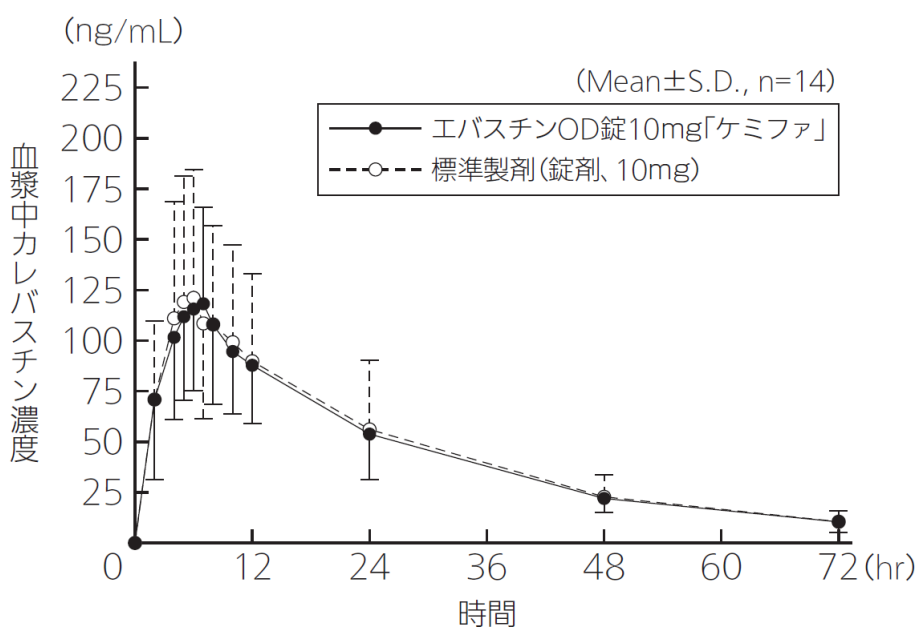
4) エバスチン OD 錠 10mg 「ケミファ」

エバスチン OD 錠 10mg 「ケミファ」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠（エバスチンとして10mg）健康成人男子に絶食下、水あり及び水なし単回経口投与して血漿中カレバスチン濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

（水あり投与）

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₇₂ (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
エバスチン OD 錠 10mg 「ケミファ」	3224.3 ±1094.2	124.5±45.8	6.0±1.8	20.5±4.6
標準製剤 (錠剤、10mg)	3328.7 ±1674.0	131.4±63.8	6.1±1.4	20.1±3.8

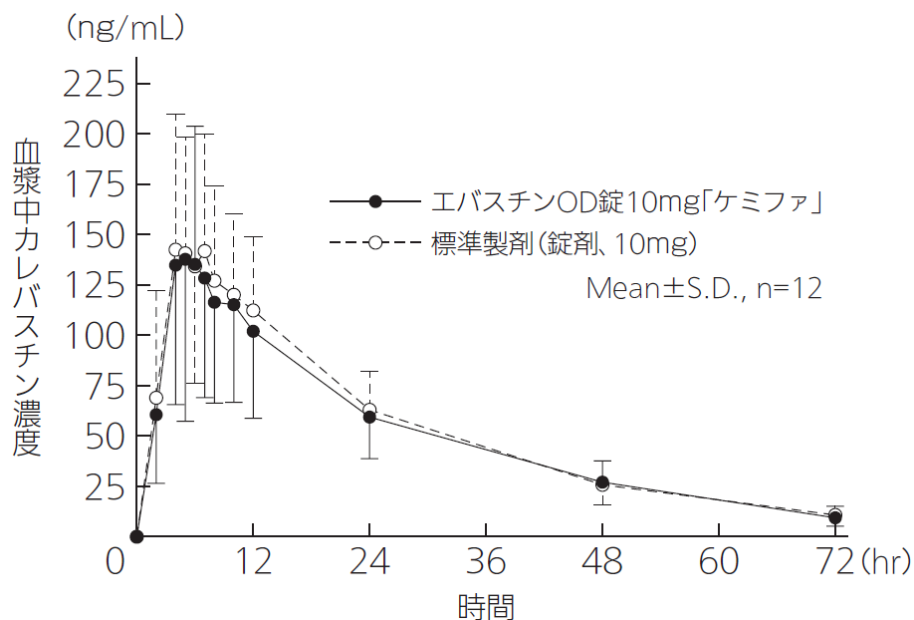
(Mean±S.D., n=14)



(水なし投与)

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC _{0→72} (ng·hr/mL)	C _{max} (ng/mL)	T _{max} (hr)	t _{1/2} (hr)
エバスチン OD 錠 10mg「ケミファ」	3674.1 ±1360.6	157.8±83.2	6.0±1.7	18.1±3.2
標準製剤 (錠剤、10mg)	3868.1 ±1243.0	155.7±58.4	6.7±2.7	18.3±3.1

(Mean±S.D., n=12)



血漿中濃度並びに AUC、C_{max} 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収
該当資料なし
4. 分布
 - (1) 血液－脳関門通過性
該当資料なし
 - (2) 血液－胎盤関門通過性
該当資料なし
 - (3) 乳汁への移行性
動物実験（ラット）で乳汁中への移行が報告されている。
 - (4) 髄液への移行性
該当資料なし
 - (5) その他の組織への移行性
該当資料なし
5. 代謝
 - (1) 代謝部位及び代謝経路
該当資料なし
 - (2) 代謝に関与する酵素（CYP450 等）の分子種
CYP2J2、CYP3A4
 - (3) 初回通過効果の有無及びその割合
該当資料なし
 - (4) 代謝物の活性の有無及び比率
有（活性代謝物：カレバステン）
 - (5) 活性代謝物の速度論的パラメータ
該当資料なし
6. 排泄
 - (1) 排泄部位及び経路
該当資料なし
 - (2) 排泄率
該当資料なし
 - (3) 排泄速度
該当資料なし
7. トランスポーターに関する情報
該当資料なし
8. 透析等による除去率
該当資料なし

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

●禁忌（次の患者には投与しないこと）

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

肝障害又はその既往歴のある患者

〔肝機能異常があらわれるおそれがある。〕

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

重要な基本的注意

- (1) 眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転など危険を伴う機械の操作に注意させること。
- (2) 長期ステロイド療法を受けている患者で本剤投与によりステロイドの減量をはかる場合は、十分な管理下で徐々に行うこと。
- (3) 本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考慮して、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。
- (4) OD錠（口腔内崩壊錠）は口腔内で崩壊するが、口腔粘膜からは吸収されないため、唾液又は水で飲み込むこと。

7. 相互作用

本剤は、主として代謝酵素 CYP2J2 及び CYP3A4 で代謝される。

(1) 併用禁忌とその理由

該当しない

(2) 併用注意とその理由

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エリスロマイシン	本剤の代謝物カレバステチンの血漿中濃度が約 2 倍に上昇することが報告されている。	カレバステチンの代謝が抑制されると考えられる。
イトラコナゾール	本剤の代謝物カレバステチンの血漿中濃度が上昇することが報告されている。	
リファンピシン	本剤の代謝物カレバステチンの血漿中濃度が低下することが報告されている。	カレバステチンの代謝が促進されると考えられる。

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

重要な副作用（頻度不明）

1) ショック、アナフィラキシー

ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、呼吸困難、喉頭浮腫等の症状が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2) 肝機能障害、黄疸

AST (GOT)、ALT (GPT)、LDH、 γ -GTP、ALP、ビリルビンの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

類薬による重大な副作用

類薬（テルフェナジン等）で、QT 延長、心室性不整脈（Torsades de pointes を含む）があらわれるとの報告がある。

(3) その他の副作用

その他の副作用	
	頻度不明
過敏症 ^{注)}	発疹、浮腫、蕁麻疹
循環器	動悸、血圧上昇
精神神経系	眠気、倦怠感、頭痛、めまい、しびれ感、不眠
消化器	口渇、胃部不快感、嘔気・嘔吐、腹痛、鼻・口腔内乾燥、下痢、舌炎
肝臓	AST (GOT)、ALT (GPT)、LDH、 γ -GTP、ALP、ビリルビンの上昇
泌尿器	排尿障害、頻尿
その他	好酸球増多、胸部圧迫感、ほてり、体重増加、月経異常、脱毛、味覚異常、BUN の上昇、尿糖

注：このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

●禁忌（次の患者には投与しないこと）

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

副作用

(2) 重大な副作用（頻度不明）

1) ショック、アナフィラキシー

ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、呼吸困難、喉頭浮腫等の症状が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^{注)}	発疹、浮腫、蕁麻疹

注：このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

9. 高齢者への投与

1 日 1 回 5mg から投与するなど注意すること。
[一般に高齢者では生理機能が低下している。]

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。
[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]
(2) 本剤投与中は授乳を避けさせること。
[動物実験（ラット）で乳汁中への移行が報告されている。]

11. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児又は幼児に対する安全性は確立していない。（使用経験が少ない。）

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤はアレルギー皮内反応を抑制するため、アレルギー皮内反応検査を実施する前は、本剤を投与しないこと。

13. 過量投与

該当資料なし

14. 適用上の注意

(1) 薬剤交付時：
PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。
[PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。]
(2) 服用時（OD 錠：口腔内崩壊錠）
OD 錠は舌の上にのせ唾液を湿潤させ、唾液のみで服用可能である。また、水で服用することもできる。

15. その他の注意

該当しない

16. その他

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

- (1) 薬効薬理試験（「VI. 薬効薬理に関する項目」参照）
- (2) 副次的薬理試験
該当資料なし
- (3) 安全性薬理試験
該当資料なし
- (4) その他の薬理試験
該当資料なし

2. 毒性試験

- (1) 単回投与毒性試験
該当資料なし
- (2) 反復投与毒性試験
該当資料なし
- (3) 生殖発生毒性試験
該当資料なし
- (4) その他の特殊毒性
該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤： エバスチン錠 5mg「ケミファ」・10mg「ケミファ」	該当しない
エバスチン OD 錠 5mg「ケミファ」・10mg「ケミファ」	該当しない
有効成分： エバスチン	該当しない

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3 年（安定性試験結果に基づく）

3. 貯法・保存条件

エバスチン錠 5mg「ケミファ」・10mg「ケミファ」	気密容器（室温保存）
エバスチン OD 錠 5mg「ケミファ」・10mg「ケミファ」	遮光・気密容器（室温保存）

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取扱い上の留意点について

該当資料なし

(2) 薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

「Ⅷ-6.重要な基本的注意とその理由及び処置方法の(1)、(4)」、「Ⅷ-14.適用上の注意」の項参照。
くすりのしおり：有り

(3) 調剤時の留意点について

該当資料なし

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

エバスチン錠 5mg「ケミファ」	： 100 錠（10 錠×10）
エバスチン錠 10mg「ケミファ」	： 100 錠（10 錠×10）
エバスチン OD 錠 5mg「ケミファ」	： 100 錠（10 錠×10）
エバスチン OD 錠 10mg「ケミファ」	： 100 錠（10 錠×10）、500 錠（10 錠×50）

7. 容器の材質

PTP	： ポリ塩化ビニル、アルミニウム箔
ピロー包装	： アルミニウム・ポリエチレンラミネートフィルム

8. 同一成分・同効薬

同一成分薬：エバステル錠 5mg・10mg、エバステル OD 錠 5mg・10mg
同 効 薬：セチリジン塩酸塩、アゼラスチン塩酸塩、エピナスチン塩酸塩、オロパタジン塩酸塩、フェキソフェナジン塩酸塩、オキサトミド、ケトチフェンフマル酸塩、ベポタスチンベシル酸塩、ロラタジン等のヒスタミン H₁ 受容体拮抗剤

9. 国際誕生年月日

該当しない

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

販売名	製造販売承認年月日	承認番号
エバスチン錠 5mg「ケミファ」	2008 年 3 月 13 日	22000AMX00832000
エバスチン錠 10mg「ケミファ」	2008 年 3 月 13 日	22000AMX00833000
エバスチン OD 錠 5mg「ケミファ」	2008 年 3 月 13 日	22000AMX00834000
エバスチン OD 錠 10mg「ケミファ」	2008 年 3 月 13 日	22000AMX00835000

11. 薬価基準収載年月日

2008 年 7 月 4 日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

販売名	HOT（9 桁）番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算コード
エバスチン錠 5mg「ケミファ」	118621504	4490019F1010	620007970
エバスチン錠 10mg「ケミファ」	118628404	4490019F2016	620007983
エバスチン OD 錠 5mg「ケミファ」	118607904	4490019F3012	620007949
エバスチン OD 錠 10mg「ケミファ」	118615404	4490019F4019	620007960

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

XI. 文献

1. 引用文献

- 1) 日本ケミファ株式会社：安定性に関する資料（社内資料）
- 2) 日本ケミファ株式会社：無包装状態における安定性に関する資料（社内資料）
- 3) 日本ケミファ株式会社：溶出に関する資料（社内資料）
- 4) 第十七改正日本薬局方解説書 C-941，廣川書店，東京，2016
- 5) 日本ケミファ株式会社：生物学的同等性に関する資料（社内資料）
- 6) 日本ケミファ株式会社：粉碎状態の安定性に関する資料（社内資料）

2. その他の参考文献

該当資料なし

XII. 参考資料

1. 主な外国での発売状況
該当しない
2. 海外における臨床支援情報
該当資料なし

XIII. 備考

1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報

本項の情報に関する注意：本項には承認を受けていない品質に関する情報が含まれる。試験方法等が確立していない内容も含まれており、あくまでも記載されている試験方法で得られた結果を事実として提示している。医療従事者が臨床適用を検討する上での参考情報であり、加工等の可否を示すものではない。

(掲載根拠：「医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドラインに関する Q&A について (その 3)」令和元年 9 月 6 日付 厚生労働省医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課 事務連絡)

粉砕後の安定性 ⁶⁾

試験名	保存条件	保存期間	保存形態	結果
エバスチン錠 5mg「ケミファ」	40℃	30 日	褐色ガラス瓶 (気密)	規格に適合
	25℃ 75%RH	30 日	シャーレ (開放)	規格に適合
	総照度 120万lx・hr (25℃、45%RH)	-	シャーレ (開放)	30 万 lx・hr より 含量が低下
エバスチン錠 10mg「ケミファ」	40℃	30 日	褐色ガラス瓶 (気密)	規格に適合
	25℃ 75%RH	30 日	シャーレ (開放)	規格に適合
	総照度 120万lx・hr (25℃、45%RH)	-	シャーレ (開放)	30 万 lx・hr より 類縁物質の増加 および含量の低下

試験項目：性状、純度試験、定量

2. その他の関連資料

